

活動名 ものづくり科学教室	団体名	日本宇宙少年団 周南分団
	地域	山口県光市
	代表者	分団長 志水 慶一
	支援金額	15万円
活動概要		
<p>毎月1回 年間12回の定例活動、近隣公民館での出前教室、周南市のイベントであるのんた祭りへの出展、金井宇宙飛行士との懇談会などを実施しました。定例活動は、毎回3時間で、工作、実験、見学などが主体の”楽しく作って学ぶ”を基本とする体験型活動です。子供達と父兄・スタッフが一緒になっての活動です。参加者は、各自、自分の工具などを持参し、講師の指導に従い、工作、実験を行ないます。時には、外部講師、他の会場で開催し、近隣社会との交流も行ないました。毎回違った新しいテーマですのでスタッフも生き生き、子供達にとっても楽しい活動になりました。工作・実験の前には、安全に関する注意、工作・実験に関する科学的な説明なども行ないました。</p> <p>ものづくりや、科学への興味のきっかけづくり、思考力、創造力、協調性、向上心などの育成ができたものと考えております。</p> <p>◆実施時期 毎月1回 原則第3日曜日 13時～16時 定例会場： 周南市久米公民館（左記以外・光市婦人の家、徳山高専）</p> <p>◆参加人数 総数 約600名 (子供 約25名 父兄 約15名 スタッフ 約10名 合計約50名 50名×12回＝総数 約600名) 参加総人員 600名</p>		



ソーラークッカーの製作



ゲルマニウムラジオの製作と電波受信



雨量計の製作



近隣企業見学(株カンロ)

◆実施に伴う効果

周南・下松・光地域に周南分団の活動が広く知られるようになった。
市の広報紙、タウン情報誌に取り上げられ、市、公民館などからイベントへの参加、出前教室の要請がかかるようになった。
そのようなことにより、さらに衆知されることに拍車がかかった。

◆苦勞した点

2011年度は、3年目の活動でした。
予算、外部へのPRに関し、ある程度習熟し、順調に進めることが出来ました。その結果、参加者も増え、地域の理解も得られたものと考えています。
周南分団では毎月実施している、ものづくり科学教室のテーマは、常に新しいものという方針でおります。今まで実施したものでは、講師となるリーダーにとって情熱、感動が乏しくなるとの考えです。リーダーの情熱、感動が希薄となれば、当然子供達にとっても感動が薄れるとの考えです。
毎年、春頃から翌年のテーマの模索を行い、10月頃には翌年のテーマを確定すべく進めています。4年目のテーマとなるとネタも乏しくなり、テーマを決めるのが苦勞している点です。
ただ苦勞が楽しみでもあり、常に新しいテーマを実施するという考えで取り組んでいきたいと考えております。

◆今後の課題・発展の方向性

活動内容をより充実させ、1年でも長く存続させたい、さらにはものづくり科学教室を周南の地に根付かせたいと考えております。
ものづくり科学教室への参加者数は、増える一方で、質の良い教室を実施する限り、参加者数は多く、社会ニーズは高いものと考えています。
継続の為には、ボランティアリーダーの増勢が不可欠です。現在、リーダーは約10名ですが、60代後半の方が多く、このままではあと数年がやっとのように思われます。
今後、ボランティアリーダー数を増やすこと、継続的にリーダーが増えるようなしくみを考えていきたいと考えています。例えば①大人の為の科学教室の実施によるボランティアリーダーの掘り起こし ②近隣企業への働きかけ ③高校生、大学生の参加要請など
また、他の団体との連携などにより、活動の広域化、活動の多様化も進めていきたいと考えております。

◆活動を終えての感想・意見等

忙しい思いをすることもありましたが、楽しく、充実した活動でした。色んな人、いろんな組織の応援、支援を得られ、交流もできました。感謝、感動することの多い一年でした。
ケガ、事故などに関し、ヒヤッとすることはありましたが、大過なく活動を終えることが出来、やれやれの思いです。
新しい子供達が、目を輝かせて新規参加してきています。子供達の感動、目の輝きに接することで、益々遣り甲斐を感じています。さあまた一年頑張ろうという思いでおります。